

令和2年度 学校経営計画・学校評価シート

R3.3.19 学校HP掲載

高知県立高知若草特別支援学校

| | | | |
|---|--|------------------|--|
| <p>《高知県の教育の基本理念》</p> <p>(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材</p> <p>《取組の方向性》</p> <p>＜第3期高知県教育振興基本計画 基本方針「横断的取組」＞ ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ○学校における働き方改革の推進</p> | <p>学校像</p> <p>○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域員がなくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りを持ち、やりがいを感じる学校</p> <p>目指すべき姿</p> <p>《児童生徒像》</p> <p>(知)自ら学ぶ ○学ぶ楽しさを感じ、自ら進んで学習する意欲や態度を身につけた児童生徒 ○社会生活に必要な知識や技能、態度を身に着けた児童生徒 (徳)意欲・協調・協力 ○人や環境と積極的にに関わり、自立し社会参加しようとする意欲を持った児童生徒 ○お互いを認め合い、思いやりの気持ちで協調・協力しようとする児童生徒 (体)健康・体力 ○卒業後も一人一人の持っている力を発揮し、将来にわたって豊かに生きるため、健康や体力、基本的な生活習慣を身に着けた児童生徒</p> | <p>目指すべき姿の概要</p> | <p>(1)学校教育目標、教育課程、日々の授業のつながりを意識したカリキュラムマネジメントサイクルの確立による児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成 (2)卒業後の自立と社会参加を見据えた教育の充実と豊かな心の育成 (3)教員の専門性の向上と指導力の育成 (4)児童生徒の命と人権を守る安心安全な学校づくりの推進 (5)特別支援教育のセンターとしての支援機能や情報発信、保護者・関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進 (6)学校教育目標の達成をめざし、やりがい、働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進</p> |
|---|--|------------------|--|

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

| 項目 | 取組むべき内容【P】 | 現状と目標【評価指標】 | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】【目標に対する成果○課題●】 | 学校関係者評価 | 見直しのポイント【A】 |
|---------------------------------|---|---|--|---|---|--|-----------|---|
| <p>専門性の向上</p> <p>教育課程の改善</p> | <p>主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善とその評価を改善の改善につなげ、よりよい教育課程を編成する。【R2～4】</p> <p>①個別の指導計画の新様式を活用した指導と評価のPDCAサイクルを確立する。</p> <p>②児童生徒の実態に応じた年間指導計画や単元計画書の作成を進め、教育課程の振り返りにつなげる。</p> <p>③授業づくりのPDCAサイクルを徹底し、主対深の視点での授業改善を一層推進する。</p> | <p>①学習評価を適切に行い、個別の指導計画の評価・改善、教育課程の改善につなげる。</p> <p>②教科の授業づくりの検証を行い、系統性のある指導計画を作成するため、「目標内容詳細表」を作成する(令和3年)。</p> <p>③分掌部が担当している業務(行事や防災教育等)の教育課程上の位置づけを明確にする。</p> <p>④本校、分校合同でカリネ委員会を実施し、教育課程実施上の課題を共有し、改善のための検討を行う。</p> <p>⑤全教員の公開授業の実施と改善のための研究協議の場を確実に実施する。</p> | <p>①②③月2回の全校または教科等担当グループ別研究日の設定、計画的な実施 ②③全教員の公開授業の実施と教科等担当グループでの授業研究(2サイクル)の確実な実施 ④教科等担当グループで学習指導要領を踏まえた「目標内容詳細表」の作成に取りかかる。</p> <p>⑤新様式により個別の指導計画を作成し、運用する。</p> <p>⑥教育課程研究会で学習評価をテーマに研修し、個別の指導計画の評価を行う。</p> <p>⑦授業実践振り返りシート(新まとめシート)を全員が作成し、実践事例として収集し、今後の実践に役立てる。(校内実践事例Bankや、R3年度以降の事例集作成につなげる。)</p> <p>⑧相談支援室担当教員の授業づくりサポートを校内でも活用する。</p> | <p>①Ⅱ型型:新様式での学習評価・改善及び年間指導計画の修正を行った。指導と評価の一体化が進んだクラスもある。</p> <p>①Ⅲ型型:新様式の不備や説明不足があり、改善を要する。 ①寄宿舎:個別の生活支援計画の見直しを行った。</p> <p>②単元計画書は若年研修対象者、教務部を中心に10事例でき、効果を確認できた教員もいた。</p> <p>③公開授業、若年研修以外では、主対深の視点での授業改善は十分にできているとは言えない。</p> <p>④②③クラス会等、個別の指導計画や授業に関する話し合いは昨年度よりも多く設定され、PDCAを回す意識や授業をチームで作る意識は広がっている。</p> | <p>①Ⅱ型型:教科と自立活動の関係や、1段階を指す子供の3つの柱での目標設定の在り方、4校カリネ委員会で検討し、12月中に校内へ周知する。</p> <p>①Ⅲ型型:教務部が中心となり関係者とともに、新様式説明書の再確認と必要な修正を行う。R2年度内にR3年度用シラバス、個計、年計、教育支援計画を完成させる(新入生以外)。観点別学習評価の実施に向け、学習評価の研修及び単票記入をR3年度に進める。</p> <p>②3つの柱での目標設定及び年間指導計画の好事例を4校カリネ委員会で収集し、校内へ周知する。年間指導計画の記入見本は教務部が作成する。</p> <p>②教育課程改善シートを用いての振り返り及びび次年度の計画を、10月の4校カリネ委員会で検討し、11月から行う。</p> <p>③主対深の授業改善を一層推進するよう管理職も公開授業、研究協議に参加し、研究部に助言を続ける。</p> | <p>①○新様式の活用により、3つの資質能力を念頭において、目標設定、3観点での学習評価を行うことが意識され始めた。教育課程改善シートを使っている振り返りにより、次年度の教育課程を検討した。●観点別学習評価の理解を深めるための学習機会をもつとともに、単元のまとまりで評価できるよう単元計画案を作成する。</p> <p>②○国、算、数の授業づくりの検証を行い、教科の系統性を考えるきっかけづくりとなった。国、算、数について「目標内容詳細表」を作成し始めた。●来年度も児童生徒の実態と学習指導要領の目標や内容とのつながり考え、具体的な指導内容を充実させていく。「目標内容詳細表」の作成は、国、算、数を土台として他教科にも広げていく。</p> <p>③○分掌部が担当している行事や防災教育等の教育課程上の位置づけは、計画案に明記するようになった。●防災、進路等の全体計画を見直し、各学級等の指導計画に反映させる。</p> <p>④○4校カリネ委員会は4回実施し、新様式の作成状況や学習評価の状況を共有し、改善のための検討を行った。ヒントとして活用できるように、個別の指導計画、年間指導計画、単元計画案について4校の好事例を収集した。●4校カリネ委員会で成果を校内で活用するために、校内カリネを行い、関係部署で協議する。</p> <p>⑤○クラス担任の公開授業の実施率は100%。研究グループを組織し、公開授業や研究協議を実施したことで、昨年度よりも公開授業の参観者が増え、グループ協議を通して主体的に授業改善をすることができた。●資質能力の育成には主対深の視点が必要であることを再確認して授業づくり・授業改善を進める。</p> <p>*アンケート(3)【肯定的回答】 ・児童生徒:「授業が分かるか」100% ・教職員:「教育課程の改善につなげる視点をもって授業づくりや学習評価ができていくか」88.9% ・保護者:「教科等の指導ではお子さんの力を育てる授業ができていくか」97.6%</p> | <p>B+</p> | <p>・PDCAサイクルのCを深くやっているのがよい。 ・好事例の共有は、教員一人一人に応じた教育課程を編成することになるのよい取組だと考える。 ・少人数の研究グループを作って公開授業や研究協議を年間10回継続的に実施し、授業づくりを見直すことや客観的な評価をすることは大胆。 ・今年はコロナの影響でできなかったこともあっただろうが、保護者の評価も高い。</p> <p>③資質能力の育成には主対深の視点が必要であることを再確認して授業づくり・授業改善を進める。</p> |
| <p>専門性の向上</p> <p>自立活動の指導の充実</p> | <p>教科学習を後ろ支えする自立活動の指導内容の充実を図る。【R2～3】</p> <p>①自立活動の指導内容を明らかにし、より実態に即した指導、支援を行う。</p> <p>②自立活動と教科の指導内容について必要な整理を行う。</p> | <p>①②自立活動に関する教員の基礎的な理解を深める。 ①全児童生徒の自立活動の流れ図(指導内容設定)を8月までに作成し、自立活動の指導内容を明らかにし、より実態に即した指導、支援を行う。 ②関係部署が連携し、自立活動と教科の指導内容について必要な整理を行う。</p> | <p>①自立活動の基本的な捉え、流れ図の作成に関する研修会の実施(1学期中) ※特総研や外部人材の活用 ②夏季休業中に流れ図を全児童生徒に作成し、個別の指導計画に反映させる。 ※流れ図作成や見直しのPDCAサイクルを個別の指導計画の作成・活用とリンクさせる。</p> <p>②教科等の指導案に、自立活動の指導目標や内容との関連を記載できる様式を作成し、活用する。</p> | <p>①全10回の流れ図研修を特総研の助言を得て実施した。</p> <p>①7人講師を中心に各クラス等で協議する研修形式により、児童生徒の共通理解も進み、自立活動の指導計画に反映させた。</p> <p>①全児童生徒の流れ図を完成させ、指導目標や指導内容、指導場面等が明確になった。2学期以降の個別の指導計画に反映した。</p> <p>①流れ図により導き出した指導目標・内容・場面が不明確なケースもあったが、自立活動部長と担任が再度確認・協議をし、修正した。</p> <p>①寄宿舎では学校PTの助言を得てストレッチ表を作成する等、個々に応じた身体面の支援を行っている。</p> | <p>①導き出した指導目標・内容・場面により、実態に即した指導支援が行えたのか、また、生活上・学習上の困難の改善に生かされたかの評価を行う研修を2学期に2回計画している。(年内に特総研レポート執筆予定)</p> <p>②教科と自立活動の関係は、10月の4校カリネ委員会で検討し、12月中に校内へ周知する。</p> <p>②公開授業の指導案及び単元計画案に、自立活動の配慮点を記入できるようにした。</p> | <p>①②○特総研のバックアップのもと、学校全体で取り組むことができた。全12回の流れ図研修やグループ別協議により、自立活動に関する教員の基礎的な理解が深まった。</p> <p>①○全児童生徒の自立活動の流れ図(指導内容設定)を8月末までに作成し、自立活動の指導内容を明らかにし、実態に即した指導支援の充実につなげている。●課題の抽出や関連付け等難しかったという感想があり、今後も研修を継続する。</p> <p>②○公開授業の指導案に教科と自立活動との関連を記載できるようにした。●他分掌と連携し、記載方法を分かりやすくする必要がある。●教科と自立活動の関連性についてさらに理解を深める必要がある。</p> <p>*アンケート(5)【肯定的回答】 ・児童生徒:「自立活動の時間に関心を持って取り組んだか」100% ・教職員:「自立活動の指導目標・内容を明らかにし、より実態に即した指導支援が行えているか」94.5%、「教科等の指導において、自立活動の指導内容を意識した指導が行えているか」93.0% ・保護者:「お子さんの自立活動の指導について、指導目標・内容を十分に説明ができていくか」95.2%</p> | <p>B+</p> | <p>・流れ図で、子供の実態、障害による困難、原因を明らかにして、目標や内容を設定する取組はともよい。 ・保護者の意向を反映させるのはよい。 ・子供のことは先生とよく話しており、1年間の成長を感じている。(保護者より)</p> <p>・研修に対する教員の満足度が高い。 ・自立活動の指導について保護者に説明ができていく。</p> <p>①一人一人の児童生徒の「流れ図」の作成または見直し ②自立活動の指導と教科の指導の関連を理解し、適切な指導場面を設定する。 ※目標内容詳細表の作成を進めることで、教科で扱う内容と自立活動の配慮事項とのきびづきを明確にしていく。</p> |

| | | | | | | | |
|--|---|--|--|---|--|---|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">文化・芸術・スポーツの振興</p> | <p>学校卒業後の生涯学習につなげる視点を持った文化・芸術、スポーツ活動の振興を図る。</p> <p>①卒業後の豊かな生活を目指し、在学中から、卒業後につながる活動を見つけるとともに社会参加の機会の実現を図る。</p> <p>②文化・芸術、スポーツ活動に関して授業等において計画的に取り組むとともに、児童生徒の意欲や主体性を向上させるため、校内での情報共有を行い、機運づくりを行う。</p> | <p>①校外への発信、社会参加の機会を増やす。 <文化・芸術活動> ・2020総文祭への参加 ・2020総文祭への参加 ・校内外の作品展やコンクール等への全児童生徒の参加 ・芸術鑑賞会や校内人材を活用したミニコンサート等の実施 ・芸術に触れる機会を持つ。<スポーツ活動> ・校外で実施されるスポーツ大会への参加者を増やす。 ・分校等との体育授業等を通じたスポーツ交流の実施</p> <p>②校内における機運をさらに高める。 ・校内表彰、校内展、読書活動などを行い、文芸系にいつも触れることのできる環境を作る。 ・保護者等への啓発を行う。</p> | <p>①について <文化・芸術活動> ・2020総文祭への参加(ステージ、作品、見学等) ・校内外の作品展やコンクール等への全児童生徒の参加 ・芸術鑑賞会や校内人材を活用したミニコンサート等の実施 <スポーツ活動> ・運動部活動の実施体制づくり</p> <p>②について ・分校等とのICTを活用した授業交流(音楽・体育・行事等) ・若草作品展、若草ポッチャ交流の実施(ICT活用によるもの含む) ・校内情報掲示板や作品展示による発信 ・保護者等への啓発(学校だより、HP等)</p> | <p>①ほとんどの児童生徒が学校紹介・発表動画や作品展示で総文祭へ参加し、WEB上で社会参加した。これらの取組を連絡帳や通信で発信する等、機運づくりを意識したクラスもあった。</p> <p>①小学部は全クラスが各種作品展に出品した。</p> <p>①学期の校外スポーツ大会はコロナ禍の影響でほぼ中止となった。1名のみ土佐市バスケットに参加。</p> <p>②作品展示はまだ少数であるが、総文室が作品展示を進める提案をしている。</p> <p>②寄宿舍では壁面飾りの充実を図っている。毎週水曜日を図書室の利用日として位置付けている。年間7回の寄宿舍だよりを発行している。</p> | <p>①2学期の文化・芸術活動予定(校外)…11月若草4校作品展、11/26芸術鑑賞会(校外)…ミラコニ花巻1名、観体不自由児・者の美術展、デジタル写真展、スリットアート出品</p> <p>①2学期のスポーツ活動の予定(校内)…9/15クラブとさ部活動指導、10/2中学校ヨット体験、10/小学部乗馬体験、11/寄宿舍障害者スポーツセンターでの余暇活動、12/17若草4校体育交流(校外)…9/27フライングディスク大会出場予定1名、11/15シニアボッチャ大会</p> <p>①寄宿舍でも、今後校内外の作品展への参加も考えていく。</p> <p>②児童生徒と総文室は、上記取組を校内掲示板やGW掲示板で周知するとともに、具体的な参加計画をすすめる。</p> <p>②担任を中心に、上記取組は生涯学習につながることを社会参加の機会であることを児童生徒・保護者に伝えていく。(授業、連絡帳、通信、HP等)</p> | <p>①コロナ禍ではあったが以下の活動を通して、校外への発信、社会参加の機会が増えた。(参加一覧別掲)</p> <p>○Web SOUTUBUNになり、児童生徒全員にスポットライトが当たる形で参加ができた。</p> <p>○人形劇団来校により生の芸術に触れる機会を持てた。●来校者のマスク着用やZoomを活用した鑑賞等、感染症予防対策を事前に確認、計画し、確実に実行する。</p> <p>○大会開催が制限されたものもあったが、校内外の各種スポーツ大会、スポーツ体験に参加した。</p> <p>○徳島県の特別支援学校とのポッチャ交流及びアート展にTV会議やWeb上で参加した。</p> <p>②以下の活動により、学習の成果を発信、発表することが社会参加の機会として広がり、校内の機運向上に役立っている。</p> <p>○高知新聞こども記者として投稿し掲載された。</p> <p>○4校合同作品展を実施し、分校の作品鑑賞等も行えた。●展示方法等についての工夫で、来年度も負担なく実施できるようにする。</p> <p>○分校との体育授業を通じたスポーツ交流を実施した。</p> <p>○学校長が各教室を訪問して表彰したり、美術作品を校内に展示したり、図書室に読書感想文コーナーを設置したりした。</p> <p>○お便りや連絡帳で保護者へのお知らせや啓発を行った。●HPを充実させタイムリーにお知らせをする。</p> <p>*アンケート(6)【肯定的回答】 ・児童生徒:「図工、美術、音楽、国語の授業を通して、好きな活動ややってみたいと思う活動が見つかったか」68.8% ・教職員:「児童生徒の社会参加を意識して文化・芸術活動の振興に取り組むことができていると思うか」87.5%(昨年度92.1%) ・保護者:「学校は文化・芸術活動を積極的に推進していると思うか」97.6%</p> <p>*アンケート(7)【肯定的回答】 ・児童生徒:「体育の授業や運動クラブ、スポーツ大会への参加を通して、好きなスポーツややってみたいと思うスポーツが見つかったか」56.3% ・教職員:「児童生徒の社会参加を意識してスポーツ活動の振興に取り組むことができていると思うか」81.9%(昨年度80.3%) ・保護者:「学校はスポーツ活動を積極的に推進していると思うか」100%</p> | <p>障害者スポーツセンターからの意見… ・コロナで大会が中止となっていて中で、学校から積極的に求めてくれ、ヨット体験や寄宿舍生のスポーツ体験ができた。 ・龍馬マラソンファンランへの参加も多い(8名)。 ・児童生徒の肯定的評価が他の項目と比べて低いように見えるが、これは一般校と比較すると高い。</p> <p>・肯定的評価の中でも積極的な肯定回答が多くなっている。 ・保護者は100%が肯定的評価である。</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">働き方改革</p> | <p>子ども向き合う時間、自分自身を高める時間の確保と、一人一人の力が生かせる職場づくりを行う。</p> <p>①効果的、効率的で計画的な業務により、見通しをもった仕事の仕方につながるなど教職員の働き方に関する意識改革を行う。</p> <p>②本校・分校で共同・協働してできる業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上を図るとともに、業務の効率化を図る。</p> | <p>①効果的、効率的な業務のための組織体制や業務分担の見直し</p> <p>①部長、クラス長の役割を明らかにし、分掌部や学級の経営力を高める</p> <p>①人材育成・専門性の向上により、学び合う風土を作る。</p> <p>①働きやすさ・安心・安全な職場環境を実現する。</p> <p>②本校・分校で共同、協働した教育活動や事務的な処理を検討する。</p> <p>②本校・分校で共同・協働してできる業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上を図るとともに、業務の効率化を図る。</p> | <p>①持ち時間数軽減、休憩時間確保のための工夫(学習支援員の活用等)</p> <p>①分掌業務の整理と、部長による進捗管理を見える化する。</p> <p>①主事と管理職とのミーティングの実施(主事会)と、クラス長の実施</p> <p>①リハリをつけた研修会・会議等の設定(短時間またはしほり時間を取るなど計画的)</p> <p>①職員室、教材室、教室の整理整頓と維持</p> <p>①全教職員の業務の振り返りによる「やめられかめりスト」の作成</p> <p>②TV会議や遠隔授業の活用</p> <p>②4校で共通した会議日程の設定</p> | <p>①クラス長会:小学部は連携が進み学級経営を学部全体で考えようとしている。中高等部は効果的な協議はこれから。</p> <p>①学び合う風土づくり:流れ図研修により進んだ。ファシリテーターによる会の進捗等を行い、人材育成を図っている。</p> <p>①持ち時間数:昨年度より平均1~2時間減(24前後)、放課後の会議日見直しにより教材研究日は増えた。</p> <p>①研修、会議の時間管理:ほぼできている。効果的な研修、協議によるよさから工夫をする。</p> <p>①多忙感:書類の量、様式の不備、書き方の説明理解の不十分さ、予定外の会等により解消の教員もいる。</p> <p>①整理整頓と維持:クラス、個人により差がある。旧訪問教室、被服室は夏季休業中に整理整頓ができた。</p> <p>①寄宿舍:会議時間短縮のための事前の資料回覧や引継ぎでの周知及び掃除、感染症対策、環境美化を行っている。2学期からは感染症対策や掃除、消毒を見直し、更に強化した。</p> <p>②遠隔授業:準備不足ではあったが、Ⅲ類型は分校と行い、今後の学びの保障を考えた。4校でTV会議や遠隔授業の活用はこれから。</p> <p>②4校共通会議日程:カリネ委員会を1学期に1回行った。</p> | <p>①クラス長会:学校経営計画推進の要となり、会を通してクラス長の学級経営力が高まるように、クラス長の在り方について主事会で協議を続ける。</p> <p>①研修、会議の時間管理:効果的な協議にするため、時間管理とともに、会のゴール設定とゴールに向かう手順を各リーダーは準備しておく。そのためにはリーダーの授業時数軽減が必要。</p> <p>①多忙感解消:R2年度内、R3年度用シラバス、個材研究日は増えた。</p> <p>①研修、会議の時間管理:ほぼできている。効果的な研修、協議によるよさから工夫をする。</p> <p>①多忙感:書類の量、様式の不備、書き方の説明理解の不十分さ、予定外の会等により解消の教員もいる。</p> <p>①整理整頓と維持:計画された期間に、整理整頓を確実に。主事が周知。</p> <p>①「やめられかめりスト」:主事、部長が振り返りで周知。</p> <p>①寄宿舍:業務の中で重複する部分を省き、改善していく。</p> <p>②遠隔授業:Ⅲ類型高2生と児童2生の進路学習及び4校体育授業交流会で実施予定。</p> | <p>①働き方に関する意識改革は以下のように、少しずつ進んでいる。</p> <p>○学習支援員の活用、授業における必要な教員数の検討等によって、昨年度よりも空き時間の確保ができた。●学習支援員の役割を明確にする。</p> <p>○会議等は17時までの50分間で行うという意識で取り組まれるようになった。</p> <p>○小学部はクラス長会で学級経営等を相談でき、OJFにもつながった。●中高等部のクラス長会は必要性の認知が不十分であったため、意義を周知し実施方法を変えて取り組む。</p> <p>○授業研、流れ図研の実施により、専門性の向上と学び合う風土ができてきた。ファシリテーターの起用に人材育成もすすんでいる。</p> <p>○教職員のオンライン研修、分校とのTV会議、居住他校交流での遠隔授業等の機会が増えた。●TV会議を促進するルールを明確にし、使用方法を周知する機会を設定する。</p> <p>●業務を単純に止めるのではなく、目的とすることがどうすればできるかを検討していく。</p> <p>●多忙感解消のため、各種シートや書類等による関連性について整理し、周知する必要がある。</p> <p>②本校・分校で共同・協働し、4校カリネ委員会や芸術スポーツの振興等の教育活動を行った。●事務的な処理等がさらに共同でできないか検討する。</p> <p>*アンケート(7)【肯定的回答】 ・教職員:「昨年度に比べて教材研究の時間が増えたか」65.8%(昨年度55.5%)</p> | <p>・学校だけで取り組むのは限界がある。国や県から急なアンケートが来たりして、自身で立てた計画が狂うこともある。もっと大胆に、ICT導入、事務仕事の改革など、所要所で工夫がいる。</p> <p>・肯定的評価が去年より10%増、少しずつはよくなってきているようだが、継続してやっていくことが大事だ。</p> <p>②本校・分校で共同・協働してできる業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上を図るとともに、業務の効率化を図る。</p> <p>③学園祭の持ち方を検討する。</p> |